

学友会東京支部だより

# 南高

発行 和歌山県立南部高等学校  
学友会東京支部  
事務局 〒363-0022  
埼玉県桶川市若宮1丁目  
8番12-204

## 第7回南高学友会東京支部総会

第7回東京支部総会は昨年6月14日(日)、会場をこれまでの品川から東京ドーム近くの「水道橋グランドホテル」に移して開催致しました。

来賓として、公務ご多忙にも拘わらず本部長として小谷芳正みなべ町長、大阪からは森下支部長と殿畑副支部長のご列席のもと、総勢42名が集いました。

総会は小谷会長の挨拶で始まり、その後全5議案が承認され、山崎春樹支部長以下、新役員体制での第7期がスタート致しました。

総会に続く懇親会は三本陽子さんの軽妙な司会でスタートし、食事をしながらの歓談では「みなべ言葉」があちらこちらで飛び交い、さながら四十年、五十年前の南部高校時代にタイムスリップしたかのような雰囲気でした。その上、軟式野球部の全国制覇という快挙に話題が大いに盛り上がり、皆さんアルコールもすすんだようです。また指名によりスピーチされた方々の思い出話や、今後の田辺やみなべ町の街づくりのビジョンなど、それぞれの故郷への思い入れが充分感じられました。

余興のビンゴゲームでも当初事務局が用意した景品に加え、ご厚意で梅干やお菓子、台所用品などを提供して下さい下さった方々がいて、ほとんどの方に行き渡り大変楽しんで頂きました。

今回の総会では昭和26年卒の大先輩達、殿畑(原田)操子さん、多々良(田中)郁子さん、水野(橋本)昌美さん、楠本(松本)幸子さんの女性軍に加えて、丸山梅吉さん、武市正夫さんの男性陣も元気なお姿でご出席頂きました。これに昭和52年卒の方も加わり、これまでにない幅広い世代間の交流で非常に充実した懇親会となりました。

締めくくりは恒例の「校歌斉唱」です。一生懸命歌う皆さんの顔を拝見しますと、だんだんと出席者の平均年齢が高くなっていますが、次回も元気で再会することを約束し、名残りを惜しみながら閉会致しました。

(事務局 記)

\* ( ) 内は旧姓。審議承認事項は12ページに掲載



♪ 雲新しく  
力あふれ  
「校歌斉唱」

新支部長 挨撈

南高学友会 東京支部長 **山 寄 春 樹**  
(昭和 42 年卒 神奈川 県平塚市)

昨年6月、第7回定期総会で支部長を仰せつかりました第19期卒の山寄春樹です。  
学友会東京支部も13年目を迎えて新役員を選任し、新たな体制でスタート致しました。  
私自身は事務局長を2年間務めさせていただき、昨年7月より寺西支部長から引き継ぐ形で、役員の方々の協力を得て、微力ながらもその任を務めて参りました。

昨年開催の水道橋グラントホテルでの総会では、6名の南高第3期卒業の大先輩方もご出席いただき、総勢42名の出席で盛況のうちに終了することができました。

現在、東京支部の活動内容は隔年毎の総会開催、レクリエーションとして年間1～2度のウォーキング実施や、年1回の支部便りの発行などが挙げられます。

メンバーの高齢化と個人情報保護法の影響もあり、新規会員の獲得も難しい状況ではありますが、学友会本部および大阪支部との交流などを通じて、活動を活性化し、新会員の獲得に繋げていきたいと考えています。

また会員の皆様から新会員獲得や新規活動提案などありましたなら、可能な限り実行してゆきたいと思いますので、どしどしご提案をお寄せ下さいますようお願い致します。

## 秋の散策楽しむ

南部高校東京学友会

南部高等学校学友会は24日、秋のウオーク・キャンプとして東京郊外のウオにある水・苔・ゆかりの名園「小川」後楽園を散策したり、印刷博物館を見学したりして、親睦を深めた。

 (後楽園で)

この歴史を学芸員の説明を  
た。  
コトの遺跡を見て楽し  
コトの遺跡を見て楽し

年1、2月、東京近郊を巡る1、2回、言葉で「フナ」歩くを催し、南部高校を主会場として、田辺高校や神島高校、田辺功徳院、田辺工業高校、和歌山工業高等専門学校などの卒業生も参加して行われた。

この日は、16人参加。強よ、天気に恵まれ、紅葉には少し早いがめづらしくも少なな、ゆっくりと湖を中心として両岸芝菜山泉水園の風に回った。心持ち初秋の風に吹かれながら、園内のベンチで持参の弁当を食べた。

午後には昌邑印刷の印刷部部長へ、紀元前1万千年からこのスノーの商量書から最新の印刷技術まで、人類



散策などで秋の一日を楽しんだ参加者（東京都の小石川後楽園で）

紀伊民報 2015 年 11 月 3 日 (日) 掲載

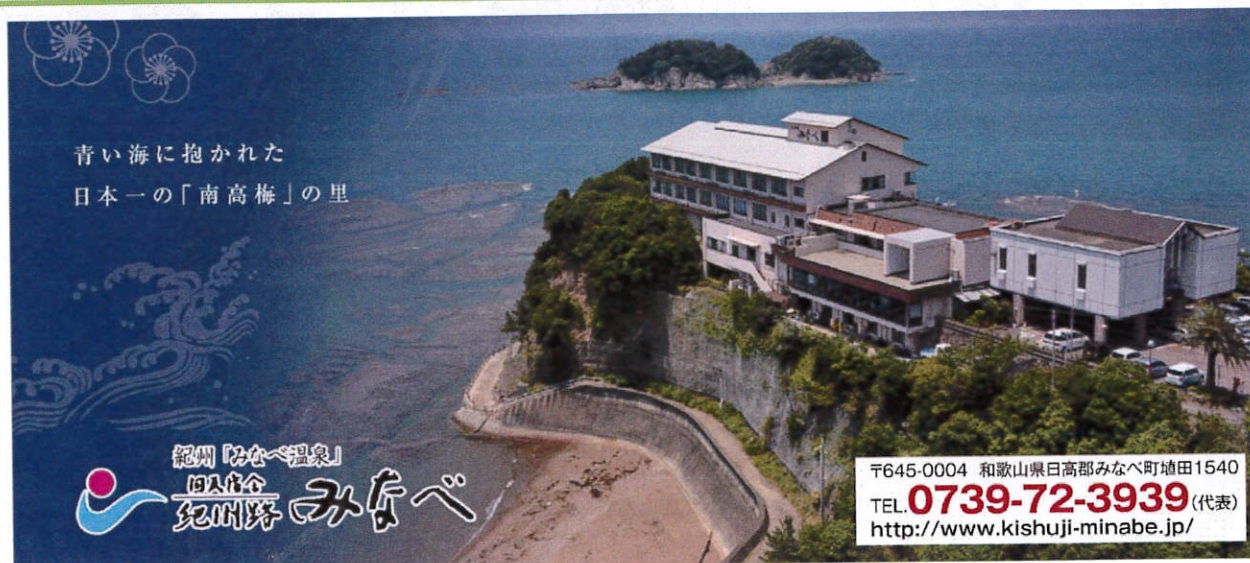
## みなべ町に繋がる太い糸

## 紀伊民報に紹介された東京支部活動

みなべ言葉でワイワイ、ブラブラと東京近郊  
を楽しく散策する東京支部の活動。

年に1～2回開催し、南高卒業生だけでなく、田辺高校、神島高校(旧田辺商業)、田辺工業高校、和歌山工業高等専門学校の卒業生も参加する幅広く楽しいウォーキング。

一昨年は都電に乗って「鬼子母神」や「六義園」、また昨年は「小石川後樂園」と「印刷博物館」を訪れました。今年は5月に「飛鳥山公園」「旧古河庭園」を予定しています。



## 名園 小石川後楽園～印刷博物館へ

昭和 33 年卒 早田 早百合（埼玉県鳩山町）

待望の晴天に恵まれた秋のウォーキング。16名の参加者が、和気あいあいとまず水戸黄門ゆかりの名園小石川後楽園へ向かいました。

各自健康保険証持参でしたが、高齢者集団、顔パスでOKとなり思わず苦笑。

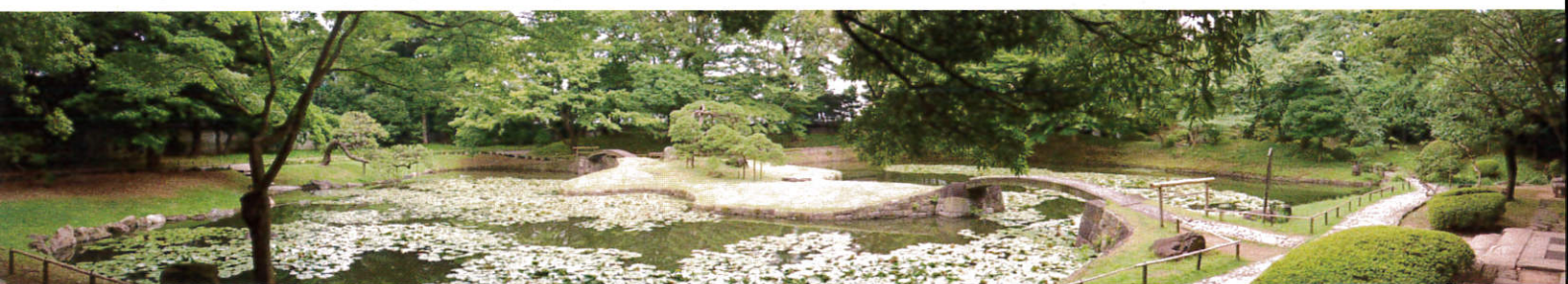
大都会の中なのに静かな公園で池を中心とした回遊式築山泉水庭園の中、ゆっくりと散策しました。紅葉は少しでしたが、ツワブキの花やセンリョウの赤い実が色鮮やかに映え、昼食も美味しく静かな時間を過ごしました。春は梅、枝垂れ桜が有名と知り、又訪れたいと思いました。

次は同行の木村さんがお勤めされていたトッパン印刷 印刷博物館へと、文京区の住宅地をゆっ

くりと散策しながら到着。印刷博物館では印刷の誕生以前から最新の印刷技術までの歴史、印刷工房では活字を使って印刷物を作ることを体験させて頂きまして楽しかったです。

思いがけずVRシアターの迫力ある立体映像でペルーのマチュピチュ遺跡を詳しく知ることができ、今なお感動的な情景が忘れられません。その後、喫茶ルームのひろびろとした応接セットにゆったりと座りみんなで楽しく歓談しました。

「次回は是非、春季ウォーキングの実行を！」とお約束していただき、皆様とお別れしました。楽しい一日を有難うございました。



伝統の製法を守りながら  
漬けた梅干が「くめ」なのです。

特選A級  
紀州南高梅使用  
め®



紀州てまりのように丸くてやわらかい梅一粒を  
大事に大切に心を込めてつみしました。

まりおとめ  
毬乙梅®



井上梅干食品株式会社

〒645-0012 和歌山県日高郡みなべ町山内1095-1

TEL. ☎0120-01-2730 FAX. ☎0120-04-2412

本社

0739-72-2730

千里売店

0739-72-5223

東京銀座店 03-6274-6033

ホームページ: <http://www.kumaheinoume.co.jp/>

## 山岳競技を終えて

昭和33年卒 遠山 誠之介 (みなべ町)

平成20年頃、6～7年後には和歌山県に二巡目の国体が来るだろうということが囁かれていました。しかし、山岳競技については天皇杯、皇后杯に関連する正式競技として開催されるかどうか不明でした。東京国体が終って、ようやく平成27年第70回国体は和歌山県で開催と決定。山岳競技も正式競技として行われることになりました。



平成23年、この競技はリード、ボルダリングの全種目、成・少年男女の全種目がみなべ町で行われることに決定。和歌山県山岳連盟では、早速準備に取り掛かりました。

平成27年6月のリハーサル大会、10月3日～5日の本大会とも、その運営の多くの部分を、さらに県代表選手の強化、20名の審査員・150名の競技運営委員の確保・養成などはもちろん、今後5年間は各府県のリハーサル大会及び本大会に視察団を派遣しなければなりません。しかし、その費用をどう捻出するか等々、多くの課題を抱え込むことになりました。



その後、会場のリードウォールは南部高校の校内に、ボルダリングウォールは南部小学校の体育館に新設と決定。それぞれ、開催日に合わせて具体的な計画がなされ、これによって施設のハード面は取りあえず見通しがつきました。また、みなべ町の実行委員会(行政)も立ち上げられ、徐々に体制が整い、ソフト面も「そこそこ行けるかな」という気がしてきました。出来る限り地元実行委員会と和岳連の連帯を密にして、やるべき事を手順に従って着々と進めてゆきました。特に、みなべ町実行委員会の担当者の方々には非常に熱心に取り組んでいただき、国体山岳競技の運営についてよく理解されていて、本大会の頃には完全に準備が出来上がり、大変有難いことだと思いました。

## 野球

### 敗退をバネに！

平成14年卒 作野 裕希 (田辺市)

5年前、国体成年軟式野球強化チーム「オール和歌山」が結成されました。

私がオール和歌山の強化選手としてチームに入ったのは4年前。1年目の国体は予選敗退。2年目は予選突破、東京国体に出場するも1回戦敗退。3年目は予選突破、長崎国体に出場し8位入賞。チームが少しずつ力をつけ、結果が出てきました。

チームは企業のような母体がなく、和歌山県内で選手を集めてできたチームで仕事もバラバラだったため、練習に全員揃うことが難しい状態でした。しかし、県職員の方々や軟式野球連盟の方々が協力してくださり、各職場の方々の理解や協力のおかげで野球に取り組める環境を作ってもらうことができました。その他にも家族や友人、関わっているすべての人の理解と協力のおかげで野球をさせてもらっていました。

各選手がその感謝の気持ちを胸に、「和歌山国体では絶対に負けられない。優勝して、結果で皆に恩返しをするんだ」という気持ちで日々の練習に取り組み、和歌山国体に挑みました。

試合当日はたくさんの方が応援に来てくださり、最高の環境で試合をすることができました。選手全員が全力で頑張りました。しかし結果は敗退。勝つことができず、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。恩返しも何もできずにオール和歌山の国体は終わってしまいました。

結果を残せず、情けないですが、私に関わってくれた全ての人や出来事に感謝の気持ちでいっぱいです。私は国体で本当に貴重な経験をさせてもらいました。この経験は大きな財産です。国体の結果でできなかった恩返しは、これからの人生で全ての人や出来事に精一杯返していきたいと思います。



こうして、いよいよ本大会！！

なんと全日程が天候に恵まれ、南高会場、南小会場とも沢山のギャラリーで大盛況。ボランティアによるサービス店や多数の出店などが南高中庭を埋め尽くし、正に校庭はスポーツの祭典一色となりました。その上、県代表の選手達も何種別かで入賞を果たし、当初の予想以上の成績を残しました。

以上の結果からみて、みなべ町での国体山岳競技は大成功であったと思っています。

なお、この国体で使用された施設のその後ですが、南高に設置されたリードのクライミングウォールは常設としてそのままの場所に残して整備は県が、管理はみなべ町が行い、南小のボルダリングウォールは町内の清川中の体育館に移設し、その運営はみなべ町体育協会と和歌山県山岳連盟の共同で行うことになりました。

以上が昨秋みなべ町で開催された「第70回和歌山国体山岳競技」の経緯と役員としての私の感想です。



南高校内



南部小学校ボルダリング会場

## ◎リード [lead]

高さ 15 m 程度、幅 3 m 以上の人口壁（ウォール）を登り、到達したポイント（高さ）を競います。登る選手は安全のため、支点にロープをかけながら登っていきます。スタートポイントのホールド（壁に設置された手がかりや足がかり）から終了のホールドまで落ちずに登れば最高ポイントである「完登」となります。

## ◎ボルダリング [bouldering]

高さ 5 m の比較的低い人口壁を登り、完登した数で競います。ロープ（命綱）を一切使わないため、安全確保のためのマットを敷いて競技を行います。

## 遠山誠之介氏略歴

- ・1979 年ネパール ロルワリン山群（6,283m 峰）・クング山群（6,196m 峰）登頂、その内 1 峰は公式には日本隊として初登頂。世界的には第 5 登頂となる。
- ・1981 年 5 月：和歌山県山岳連盟技術指導員会 委員長に就任。
- ・1981 年～2012 年：和歌山県成年男子山岳チームの監督として 14 回就任。
- ・2008 年～2012 年：和歌山県山岳連盟会長
- ・2012 年 5 月：和歌山県山岳連盟会長を退任
- ・現在：和歌山県山岳連盟相談役・顧問

## 新体操

### 天皇杯獲得へ貢献

平成 14 年卒 雑賀 靖子（田辺市）

新体操部は、現在 3 年生 4 名、1 年生 2 名の計 6 名で活動しています。うち 5 名が新体操少年女子チームのメンバーに選抜されました。

本校卒業生でもあり、生徒たちを幼いころから指導してこられた玉井和代監督の下、学校でのクラブ活動と並行して、週末や長期休暇には強化合宿に参加し、厳しい練習を重ねて力をつけてきました。

きのくに和歌山国体新体操競技は、和歌山ビッグホエールにて 9 月 6 日に個人競技が、7 日に団体競技が行われました。

個人演技では、本校 3 年生田中冴さんがフープ、林和悠さんがボール、小竹史花さんがクラブ、安井美織さんがリボンの演技を披露し、それぞれ十分に練習の成果を発揮して 10 位を獲得、翌日の団体演技では、入賞への期待から大きなプレッシャーがかかる中、最高の演技で観客、審判団を魅了し、黒潮国体以来 44 年ぶりとなる 8 位入賞を果たすことができました。

全競技種目のトップを飾っての入賞で、和歌山県選手団の天皇杯獲得に大きく貢献しました。

玉井和代監督（中央）





## 第9回 田辺・弁慶映画祭をみて

1963 年卒 木村 允彦 (埼玉県桶川市)

子供の頃は娯楽が少なく、映画は全盛時代だった。お正月ともなれば立ち見の客でいっぱい！ 換気の悪い館内に立ちのぼるタバコの煙、すえた椅子の匂い、厠の匂い、煎餅をかじる音、隣の人と喋りながらみるおいやんやおばやん、映写途中、フィルムがパタパタジューンと切れる画像・・・懐かしい風景でした。

映画産業が下火となってもう何十年も過ぎましたが、今、地方では町興しで映画祭を催したり、ロケ地を提供したり、頑張っている町がアッチコッチにあります。田辺・弁慶映画祭もその中の一つです。

この映画祭を初めてみたのは6年前の第4回映画祭(2010年)だった。文館(紀南文化会館の略)の正面階段をのぼるが、会場入口には垂れ幕・看板・旗・ポスター等がなく、映画をみに行くというそれらしい人にも会わず、ここで映画祭がホンマにやっとなのか・・・？ という不安を抱き、エレベーターで4階コンペティション会場の小ホールに入る。案の定、空席が多い。これじゃなあ〜。主催者はどんな方法で宣伝・人集めをしたんやろか？ こんなじゃこの映画祭はそう長くは続かんやろう〜？ と、思いながら応募作品をみたのが最初の印象でもあり感想だった。

その後、映画祭に合わせて帰省したいと思っていたが、なかなか都合がつかなかったが、今回やっとみることができた。田辺駅前の弁慶の像の前には映画祭の小旗が立ち、文館の正面入口の柱には看板が取り付けられ、階段の左右には小旗がはためき、2階広場にはグッズ・名産・お弁当売りの出店があり、映画祭会場らしくなっていた。初日(6日)の小ホールは前回より幾らか観客数が多いかなという感じ。

「コンペ8作品をみせてもらった感想」 同世代の若い二人の話・文章や音楽で用いられる「カットアップ」という手法を使った話、過去と現在、虚構と現実を入り混ぜた話・社会問題・虐待・暴力・愛・コミカルな展開のドラマ・宇宙人を呼ぶ会の話・淡く切ない15歳の若い恋の物語、等々と多彩で、若い監督の商業ナイズされていない、新しい感覚の映像が盛りだくさん。1960年後半のニューシネマの匂いを感じさせるものもあり、どの作品も新鮮だった。上映時間の制限はないようだったが、長いのは100分、短い作品は30分、表現によって時間が必要な作品もあるが、文学でも短編のうまい作家は長編もうまいといわれている。この手の作品は切り詰め、短くした方がみやすくなるのではと思った。これでもか、これでもかと繰り返された作品もあり、しつこく感じた。

最初の第1回の応募は19作品だったが、昨年の第9回は144作品 集まったという。世の中に知れ渡ってきたのだろう。節目の今年は10回目を迎える。応募数も増え、良い作品が集まるだろう。期待したい。

郷土に関係のある2作品を紹介。

【轟音】 応援作品 無料 大ホールで上映。この映画は龍神村の慰霊碑をめぐる映画。

監督：笠原 栄理、出演：古久保 健、エリザベス・クロック、龍神村のみなさん

1945年5月5日、B29が日本の戦闘機に銃撃され龍神村に墜落。慰霊碑はその乗組員のために建てられ、村人は毎年欠かさず慰霊を続けている。古久保 健さんのお父さんは幼い頃、中国戦線で戦死。無念の戦死をした兵士の日米両国の遺族。古久保さんはやっとの思いで見つけた撃墜されたB29の遺族へ詰まる思いを伝えるために渡米・・・あの忌まわしい戦争を忘れたかのような昨今、考えさせるドキュメントであった。詳しくはネットで検索を。

【海難1890】 ナビゲート作品 大ホールで上映 無料。昨年12月5日全国公開された。

日本とトルコの合作映画 両国を結ぶ太い絆 監督：田中 光敏、出演：内野 聖陽、忽那 汐里ら

1890年、串本町大島沖でトルコの軍艦エルトゥールル号が海難事故で遭難。村民の決死の救助で69名を救出、587名は死亡・行方不明。

1985年、サダム・フセインはイラン上空の航空機に対し無差別攻撃を宣言。当時、航空自衛隊機による救出はできなかった。トルコ航空が期限ぎりぎりでイランに取り残された邦人215名を救出。危機を脱することができた。このできごとは約100年前のエルトゥールル号海難事故につながる。

トルコ大使が日本に赴任して真っ先に訪れるのは串本の慰霊碑です。トルコの方が日本で一番行きたいところは、京都や東京ではなく和歌山だと答えるそうです。感動のドラマを是非！



田辺駅前 弁慶像



紀南文化会館正面



出演者・監督による観客とのトーク

# 『歌って健やか わが80年の歌物語』

昭和45年卒 三本 陽子

(さいたま市岩槻区)

宮本昌子さん、宮本双葉さんご夫妻共著の『歌って健やか わが80年の歌物語』を拝読しました。専門の音楽を軸に、生い立ち、お二人の馴れ初め、お嬢様二人との家庭生活、戦後の時の流れ、また舞台は和歌山県の岩代・切目、そして南部高校と、私の知っている活字（名称）が目に入ってきて楽しく読み始めました。

宮本ご夫妻と昭和27年生まれの私とでは15年の歳の差があります。3、4年程前に訪れた南高は近代的な建物が増え、私の知っている南高とは少々違っていましたが、宮本さんの登場する舞台は私の知っている景色とほぼ同じだと想像しながら読みました。

お二人は同級生です。今の高校生とは違い、二人並んで・・・手は繋がらないで汽車での通学だったかしら・・・など、勝手に想像しました。違っていましたらすみません。事の真偽をお返事いただきたいほど、心ときめきました。高校生の昌子先輩はさぞかし可愛いお嬢さんだったことでしょう。会ってみたいかったです。

音楽に関しての部分について書かせていただきます。

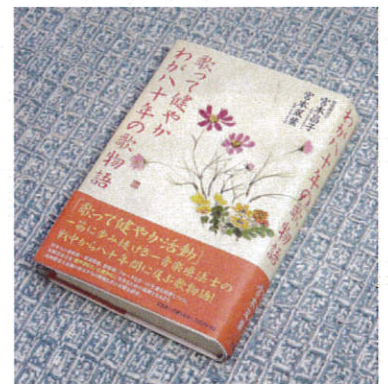
私事ですが、昭和53年生まれの長女が音大演奏学科声楽専攻を卒業し、二期会オペラ研究所を経て、只今東京二期会所属になっております。娘の音楽活動は20歳の時、地元のピアノの先生との福祉施設や老人介護施設、また病院等の訪問ボランティアから始まりました。親である私達も利用者の方々と一緒に歌うメンバーとして参加していましたので、「音楽そのもの」の力や「歌の歌詞」の効力を目の当たりにし、現場で初めて音楽療法という言葉に遭遇しました。

身体を動かせず表現も全くできない女性が、長女の花嫁人形（落谷 虹児 詩♪きんらんどんすの帯しめながら～）の歌声で涙を流してくれました。その時、歌の原点はここだ！と母娘で確認しました。宮本先生ご専門の音楽療法との出会いでした。音楽の専門書として参考にさせていただいていることがまだまだあります。

オペラは製作事務所がすべてをとりしきり、歌手は舞台のことだけに専念できます。ただ、所属事務所を通さない仕事の場合には、歌う以外にもプログラム製作・著作権に関わる手続きなど色々と事務作業があります。この本には、確かな参考文献、また著作権手続きに必要な情報が分かるように書かれていて、あらゆる面で参考にさせていただいております。

今、娘は歌の仕事の他、音楽教室での指導、そして地元で市民の方に合唱指導をしております。これから娘も、宮本先生のように音楽を軸に色々な経験を積み、長い人生をゆっくり進んでいって欲しいと願っております。

宮本先生ご夫妻のご健康とますますのご活躍を感謝を込めてお祈り申し上げます。



梅をつむ贅  
『黄金漬』をやわらかな道東産の樟前昆布で  
つつんだまろやかで旨味豊かな梅干しです。



元祖はちみつ梅  
こがねづけ  
選りすぐりの紀州南高梅とはちみつが  
醸し出す、まろやかで上品な梅干しです。

梅  
はん

通信販売カタログ・商品のお問合せ、お求めは

フリーダイヤル  
電話

0120-197-832

FAX

フリーダイヤル  
0120-319-515

受付時間 平日/午前8時～午後6時 土曜/午前8時～午後5時  
〒645-0027  
株式会社梅一番井口 和歌山県日高郡みなべ町西本庄1224

FAXおよびホームページでは24時間、受け付けております。

http://www.ume1.com/



## 紀伊山地の霊場と参詣道を歩く (2015年11月7日～9日)

昭和42年卒 川口 光雄 (千葉県柏市)



旧友、山崎春樹君と田中春夫君の3人で熊野三山を歩いてきましたので投稿します。(文中―は徒歩、＝は乗り物利用)

1日目 千葉県 柏＝東京＝名古屋＝新宮 11時35分

熊野速玉大社浜王子―高野坂―佐野王子＝浜の宮王子―尼將軍供養塔―市野々王子大門坂―多富気王子―美滝山荘 17時35分 泊

朱赤が目立つ大社、主祭神の熊野速玉大神は熊野川の神格化に起源を持つといわれている。参拝後河原横丁で昼食、昔の風情があり店人も優しく気持ちよく頂け本格的に歩き開始。

浜王子から海を見ながら線路際歩き、高野坂は森歩きで山家には落ち着く。今夜の宿には厳しい時間なので佐野王子から丁度来たバスで那智駅前まで行く。急ぎ足で各所を参り、大門坂ではすっかり暗くなるが広い階段を着実に登り宿主に歓待される。夜半、雨となる

2日目 大雲取越え。那智大滝―熊野那智大社―青岸渡寺 8時10分 那智高原休憩所―登り立茶屋跡―舟見茶屋跡―色川辻―地藏茶屋跡(大雲取山往復)―石倉峠―越前峠―円座石―小口自然の家 4時半着、泊

大社は長い階段を登るとあり、主祭神熊野夫須美大神の起源是那智大滝の信仰にあるとされている。

西国33ヶ所の第1番札所である青岸渡寺にはしっかりと参拝する。寺の後ろから山中に入り那智高原まで急坂登る。激しい雨であるが古道歩きは難儀が多いほど修行になると思い大雲取越えも3人で力強く明るく歩いていく。

地藏茶屋跡は良い休み場でトイレ、自販機もある。ゆっくり食事した後、やはり山家は山頂を目指す。山頂から晴れていれば富士山最遠望所だが、雨では無理である。戻って古道を行く。越前峠からは長い下り坂。行き交う人は外国人でオーストラリア人が多い。雨の中、民宿主の歓待を受ける。元は熊瀬川中学校の校舎を改良したとか。

3日目 小雲取越え。小口自然の家 7時10分―桜茶屋跡・桜峠―石堂茶屋跡―百間ぐら―万才峠分岐―松畑茶屋跡―請川―熊野本宮大社＝田辺＝南部駅―三鍋王子―実家

小雨の中、出発。行き交う外国人はやはりオーストラリア人。百間ぐらは中辺路コースで1番の展望所である。絵にも描けない美しさだ。そして急坂を下れば万才峠への分岐で伊勢路への道標があり、いつか伊勢路も歩いてみたいと思った。さらに下って熊野川が見えてくると間もなく請川に出る。そこから熊野本宮大社まで3キロを走るがごとく歩く。そしてついに全国3千余ある熊野神社の総本宮「熊野本宮大社」に無事につき道中のお守りを感謝して御参りする。

「熊野権現御垂？」では主神の家津御子大神は大斎原のイチイの木に降臨したとされ木の神と崇められ紀(木)の国の由来になったそう。参拝後昼過ぎのバスで田辺にそして電車でみなべに帰った。

夜は紀州路みなべで恩師山本賢先生を囲んで同級生17人での食事会と明日からの39会古道歩きの決起大会?をする。



山本賢先生を囲んで



## 39会で 熊野古道を歩く！

昭和42年卒 富山 京子 (みなべ町)

昭和39年に南部中学を卒業した関東在住の同級生(39会という)の希望が叶い、地元の同級生に南部高校の先輩たちを交えて総勢17名の古道歩き。

前日までの大雨も嘘のような快晴の11月10日、「熊野古道」に向けてチャーターバスが南部駅を出発！

まず発心門王子で軽く準備体操を済ませ、郷土の世界遺産・熊野古道歩きを開始。水呑王子までは舗装路で足取りも軽く、自然道の紅葉を楽しみながら坂を登りきると、果無山脈が連なる山並みが一望できる集落到着。語り部さんの説明中、フジバカマが植えられた畑にアサギマダラが飛んできた。旅をする蝶で秋には南下するといわれるアサギマダラに遭遇し、一同夢中でカメラを向けた。

熊野詣での人々がはるか彼方の本宮大社を伏して拝んだという伏拝王子の高台で、和泉式部の歌碑と供養塔の説明を聞き、横の茶店で昼食と温泉コーヒーで一息入れて古道歩きを再開。

森林浴を満喫しながら三軒茶屋跡を通り関所跡に到着。「ここは高野山地点」「左きみい寺三十一里 右こうや十七里」と刻まれた石の道標があった。関所をくぐり緩やかな古道を下りながら祓戸王子を経て、熊野本宮大社の裏に着いた。大社には裏口から入門(笑)。静かな森の中に並ぶ社殿から凜とした空気が漂い、身の引き締まる思いがした。荘厳な社殿の前で手を合わせ、表門から出門して、長い石段を下りて1日目の行程を終了。語り部さんの案内で、郷土の歴史を学んだ1日であった。

夜は湯の峰温泉にある「小栗屋」で草鞋を脱ぎ、90度の源泉風呂で大騒ぎして、郷土料理で宴会となった。夕食後、宿主から小栗判官物語の由来を聞く中で、南部中学の恩師・山本賢先生の名がでたり、みなべ町と小栗判官との関わりを知り、不思議な縁に驚きながらも有意義な夜を過ごした。

2日目は「赤城越えコース」を目指す。発心門王子から急な坂を下りて猪鼻王子を抜けて船玉神社へ来ると、赤い鉄橋と紅葉が美しい赤城越え広場に出た。赤城越えは道標「一」から「十一」まで続く古道。つづら折れの急な上りで、杉林の中の丸太の階段を上がっていくうちに息切れがして歩くスピードも落ちていき、賑やかな声もいつのまにか沈黙。熊野古道とはこういう道だといわんばかりの厳しい坂道を上り、三里村の農道から見た果無山脈や熊野川が見えた。

いにしへの熊野詣での旅人は、草鞋に杖のみの装備でよくぞ遠方から歩いてきたものだと感心するばかり。途中たどり着けずに力尽きた人が多かったであろうというのは、道端に祭られているお地蔵さんの多さでも察することができた。苦難の旅の末に大社にたどり着いた昔の旅人は、どのような祈りを捧げたのだろうか？

尾根道の緑を楽しみながら歩いていると、湯の峰の方から登ってくるフランスからの巡礼ツアー？と出会い、笑顔で“ボン・ジュール”と挨拶を交わした。鍋破地蔵、柿原茶屋跡と狭い石ころの坂が続き、滑らないようにと気を引き締めながら地獄坂を下り、温泉の香漂う湯の峰温泉に無事到着した。

湯の峰温泉は、川沿いに旅館が並ぶ山間のひなびた温泉町。万病削除と言われる良質の湯で、小栗判官を生き返らせたと言えられるツボ湯が橋のたもとにあり、また温泉玉子や温泉サツマイモなどを茹でる場所もあり、昔ながらの湯治場である。湯の峰温泉で待機していた友人が、温泉で玉子とサツマイモを茹でて出迎えてくれ、疲れも吹っ飛んだ！



短い距離であったが、聖なる熊野とその大自然にそれぞれに思いを巡らせながらの2日間の古道ウォーキングに大満足して、南部駅で解散。お疲れ様でした！

フジバカマの蜜を吸う  
アサギマダラ



## 半農半Xと農業ビジネスのその後



昭和46年卒 森下 武子（東京都新宿区）

2014年4月号の本誌で「半農半Xと農業に取り組む」のタイトルで近況をお伝えしたが、その後の活動の報告をさせていただく。2014年3月に農業経済学博士の学位を得た後、2014年は海外の歴史や遺跡の見学と国内の農産物直売所の見学ツアーに出かけることが多く、また八ヶ岳南麓で家庭菜園ができる拠点をもちたいと八ヶ岳南麓にも何度か出かけた。2015年1月に八ヶ岳南麓で小さな山小屋に巡り合い、その山小屋を買ってリフォームし、小さな畑を借りて家庭菜園に取り組んだ。

畑は草が茫々で、家庭用草刈り機を買って草刈りから始めた。夏野菜には間に合わず、秋野菜からスタート。ニンジン、大根、カブ、ルッコラは多めに、白菜、キャベツ、カリフラワー、スティックブロッコリーは2〜3個植えて、11月から12月にかけて収穫した。ルッコラは緑の色も香りも味も濃く、こんなに立派で美味しいルッコラは初めてで、友人にもお裾分けしたが大好評であった。これは、茨城県の有機野菜の農業生産法人で学んだ息子が作業を指導してくれたお蔭でもある。

また、HPをこれまでの経営コンサルティングに農業事業化支援を加えて新しく作成した。そこでは「家庭菜園を始めました」とのタイトルで家庭菜園の野菜の成長の写真を載せた。また、農業事業化支援のサイトでは、次のような中小規模の農業への期待と応援を表明した。「大規模農業者だけではなく、中小規模の農業者や個人農家、兼業農家などの家族農業についても、①安全で新鮮な農産物の確保、②景観の保全、③個人の生活の豊かさ、④地域の活性化等の観点から、その役割は重要である。消費者に直販する農産物直売所やネット販売は中小規模や家族農業にとって、①販路の確保、②品質の良さに応じた価格設定、③農産物加工などの新商品販売、などが可能になり、生計を立てるために有効な方法である。」

こうした考えから、(株)サン・フォレスト（私の個人会社）は中小規模の農業者や家族農業が直販できる農産物直売所やネット販売を支援している。内容は、レストラン等の業務用需要などの販路開拓や提携、農産物加工品などの新商品企画などのマーケティング、事業運営を支援するコンサルティング・サービスの提供など……。さらに、知人の農家の農産物をネット販売して、農家と都会の消費者をつなぐことも今後取り組んでいきたいと考えている。

昨年の11月に大学の同期会があり、そこで40年目の文化祭が企画されて、私は故郷みなべの「南高梅の梅干」と「大坊のみかん」の他に新潟の野菜と米のミニショップを開いた。農産物のネットショップのアンテナショップ版として、消費者の反応を見たいと考えたのである。梅干とみかんは好評であった。後は安全と美味しさの付加価値に料金を支払ってくれる消費者にどれだけ多く知らせることができるか、どう認知度を高めるかであろう。野菜と米（2kg）は単価が安いので送料が高くてつき、よほど地元の独自性のある特産物を選ばないと採算が確保しにくい。

八ヶ岳南麓の家庭菜園はまだ始めたばかりで、今年の春野菜は息子の協力をあまり期待できず、どのように農作業を行うのか考えなければならない。息子は50種類の農産物を作り周辺の消費者に配達する千葉県の有機農家で4月から研修し、その後は独立して就農する予定である。

八ヶ岳の農作業は、手伝ってくれる友人を募り、さらに地元のシルバー人材センターからの助っ人募集や当地域の知り合いを増やす方策などで対応していくことになるだろう。農業ビジネスはネットショップも含めてまだ構想中の段階であるが、試行錯誤を重ねて少しずつ半農半Xのライフスタイルが見え始めてきている。

今年1月1日付の日経新聞によれば、昨年の11月に九州で農家らによる小農学会が発足した。「小農」の定義には、家族経営、兼業農家、農的暮らしを楽しむ農家、市民農園や田舎暮らしなど農に関わる都市農民も含まれる。生態系や農地を守り、農村を維持し食料を確保していくために、こうした小農が活発に活動することを応援したい。私のような都市農民にとって、（本音を言えば）農作業は苦手であるが、食料を一部でも自給できる方策を持つこと、及び田舎暮らしで心と体をリフレッシュすることの効果は大きい。

今後も小農の一員として、さらなる活動を深めて田舎暮らしと農作業に体を慣らす一方、小農を応援する農業ビジネスの構想を固めて実践に移していきたい。



八ヶ岳南麓の山小屋

## ミニギャラリー



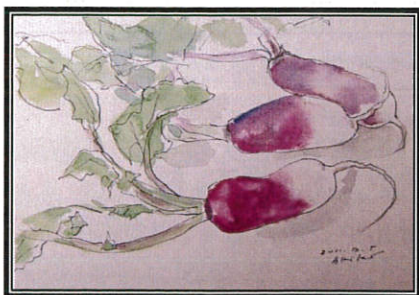
「浜辺のうた」

油彩 F50 2011 第63回千葉県展



「故郷の海辺」

油彩 F50



「赤かぶ」

水彩 ハガキ大



「思郷」

油彩 F30 2014 第45回千葉市展



「海辺」 水彩 F4

昭和31年卒 石田 明子 (千葉県八千代市)

絵画にいそしむかたわら、みなべ町の文芸クラブ  
「随筆みなべ」の会員としても活躍されています。

## ◎第6期会計報告（平成25年4月～27年3月）

| 収入の部     |           | 支出の部   |           |
|----------|-----------|--------|-----------|
| 前期繰越金    | 244,311   | 総会懇親会費 | 419,923   |
| 前年度分会費受入 | 26,000    | 役員会議費  | 67,877    |
| 当期賛助会費   | 314,000   | 広報会議費  | 37,512    |
| 次年以後会費預り | 10,000    | 会報発行費  | 160,800   |
| 総会懇親会費   | 328,000   | 事務用品費  | 37,209    |
| 広告掲載料受入  | 50,000    | 通 信 費  | 124,532   |
| 本部支援金    | 60,000    | 慶弔見舞金  | 23,790    |
| 御祝儀・寄付他  | 65,000    | 雑 費    | 71,255    |
| 受取利息     | 17        |        |           |
| 雑 収 入    |           | 次期繰越金  | 154,430   |
| 合 計      | 1,097,328 | 合 計    | 1,097,328 |

\*前期繰越金に当期分賛助会費 16,000 円を含む。

第6期賛助会員数(25年度80名、26年度85名)

## ◎第7期予算計画（平成27年4月～29年3月）

| 収入の部    |         | 支出の部   |         |
|---------|---------|--------|---------|
| 前期繰越金   | 154,430 | 総会懇親会費 | 400,000 |
| 当期賛助会費  | 350,000 | 役員会議費  | 70,000  |
| 賛助会費預り分 |         | 広報会議費  | 40,000  |
| 総会懇親会費  | 360,000 | 会報発行費  | 160,000 |
| 御祝儀・寄付他 |         | 事務用品費  | 40,000  |
| 広告掲載料受入 | 60,000  | 通 信 費  | 120,000 |
| 本部支援金   | 60,000  | 慶弔見舞金  | 20,000  |
| 受取利息    |         | 雑 費    | 70,000  |
| 雑 収 入   |         |        |         |
|         |         | 次期繰越金  | 64,430  |
| 合 計     | 984,430 | 合 計    | 984,430 |

| 第七期 新役員紹介       |  |          |  |          |  |       |  |          |  |          |  |          |  |       |  |          |  |
|-----------------|--|----------|--|----------|--|-------|--|----------|--|----------|--|----------|--|-------|--|----------|--|
| (平成27年4月～29年3月) |  |          |  |          |  |       |  |          |  |          |  |          |  |       |  |          |  |
| 支部長             |  | 山  寄  春樹 |  | (昭和42年卒) |  | 副支部長  |  | 木村 允彦    |  | (昭和38年卒) |  | 事務局長     |  | 中尾 康次 |  | (昭和44年卒) |  |
| 庶務              |  | 齋藤 文子    |  | (昭和40年卒) |  | 三本 陽子 |  | (昭和45年卒) |  | 杉野 雅子    |  | (昭和42年卒) |  | 神田 典子 |  | (昭和42年卒) |  |
| 幹事              |  | 宮本 双葉    |  | (昭和30年卒) |  | 岩本 喜直 |  | (昭和34年卒) |  | 岩本 佳子    |  | (昭和36年卒) |  | 稲井 清子 |  | (昭和38年卒) |  |
| 会計              |  | 楠本 邦一    |  | (昭和42年卒) |  | 森下 武子 |  | (昭和46年卒) |  | 寺西 寛志    |  | (昭和33年卒) |  | 松山 太郎 |  | (昭和38年卒) |  |
| 顧問              |  | 浜田 好通    |  | (昭和28年卒) |  | 前田 至美 |  | (昭和29年卒) |  |          |  |          |  |       |  |          |  |

ご寄付 ありがとうございます。

丸山 梅吉 ・ 岡村 茂子 ・ 池田 素子 ・ 坂本 龍

上記の方々からご寄付をいただきました。心より御礼申し上げます。 ※敬称略

## 編集後記

1月、地域の自治会主催で「餅つき大会」を行なった。10年ぶりの開催で不明の点が多く試行錯誤したが、ご年配の方々の協力・アドバイス等のおかげで、当日は順調かつ大盛況であった。「昔取った杵柄」とは、文字通りこういうことかと納得した次第。

実は地域の「シニアクラブ」(旧老人会)も70代後半から80代の方が半数を占め、60代、70代前半の若手(?)を増やすことが重要テーマだそう。ただ、グランドゴルフ、麻雀、カラオケなど、元気な活動状況を拝見すると旧来の年齢の尺度が合わなくなっているようでもある。

以前ある方が「高齢化社会」でなく「長寿社会」と名づけようと言っていたことを思い出した。

当学友会東京支部でも同じ課題に直面しており(卒業生情報が入手しづらい昨今)会の存続・発展のため、皆さんの口コミによる新規会員の拡がりに期待している。

(事務局：中尾)

## 編集スタッフ

木村 允彦 / TEL 048-786-3514

齋藤 文子 / TEL 045-383-8703 杉野 雅子 / TEL 090-7198-9423